

## ちよっとピンぼけ

ロバート・キャパ著

川添浩史・井上清一訳

今から10年以上も前、初めて報道写真家、ロバート・キャパの写真に出会いました。以後、キャパ展があると聞けば足を運んでいました。それは、キャパが撮影した写真が好きだったことはもちろんですが、キャパ本人にも興味があったのです。本書でも著者紹介のところにあります。俳優のようにポーズを決めているキャパの写真がかっこいい！いたいこの人はどんな人生を歩んで来たのか・・・41歳という短い生涯をどのように駆け抜けてきたのか、を知りたくて本書を購入。10年以上の歳月を経て、今回、再度読み直してみました。

本書では、キャパの半生と主な作品が紹介されています。1931年、ブタペストのユダヤ人の家庭に生まれたキャパは、第二次世界大戦中に各国を回り、劇的な瞬間を撮り続けて来ました。中でも、スペイン政府軍の銃弾に倒れる兵士を撮った「崩れ落ちる兵士」は、今でもその真偽が議論になるほど有名な一枚です。また、女性との噂話もたくさんありましたが、一生、愛人ゲルダを愛し、彼女を失ってからもう一生独身を通してきました。私は、キャパの写真の中で、戦場以外で撮影された日常の一枚の方が好きです。親日家でもあった彼が撮影した東京の下町に暮らす人々のコマや、戦争中、束の間の平和の中で撮影された子供たち、有名人の何気ない日常・・・。キャパの写真には、どこか温かさが感じられます。きっとキャパ本人は、人が好きなんだろうと思います。

Y・C・



文春文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞